

電気・精密機器

1. 評価対象企業（23 社）

【産業・民生エレクトロニクス部門】（8 社）

日 立 製 作 所、三 菱 電 機、オ ム ロ ン、日 本 電 気、富 士 通、
ル ネ サ ス エ レ ク ト ロ ニ ク ス、パ ナ ソ ニ ッ ク ホ ー ル デ ィ ン グ ス、
ソ ニ ー グ ル ー プ

【電子部品部門】（6 社） ミネベアミツミ、ニデック、TDK、ローム、京セラ、村田製作所

【精密機器部門】（9 社） 富士フイルムホールディングス、ディスコ、セイコーエプソン、 アドバンテスト、レーザーテック（新規）、HOYA、キャノン、 リ コ ー、東 京 エ レ ク ト ロ ン

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	1	5
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的信息開示	1	10
計		13	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは 70 名（所属先 31 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、新規に企業を加えたほか、ESG 関連を中心に項目数・内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の電気・精密機器全体（以下「全体」）の総合評価平均点は 76.1 点（昨年度 76.7 点）、総合評価点の標準偏差は 6.0 点（昨年度 5.5 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、高得点順に、産業・民生エレクトロニクス部門（8 社）が 78.2 点（昨年度 77.2 点）、精密機器部門（9 社）が 75.3 点（昨年度 78.5 点）、電子部品部門（6 社）が 74.4 点（昨年度 74.0 点）となった。昨年度に比べ、精密機器部門が下がった。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 74%（昨年度 77%）、説明会等が 77%（昨年度同率）、フェア・ディスクロージャーが 84%（昨年度 86%）、

ESG 関連が 80%（昨年度 78%）、自主的情報開示が 67%（昨年度同率）となった。

- ④ 評価項目について見ると、全 13 項目のうち、**フェア・ディスクロージャー**の次の項目および **ESG 関連**の中の 1 項目（下記⑥の(d)）が 80%以上の平均得点率となり、高水準であった。

- ・「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか」（平均得点率 84%〔昨年度 86%〕）（得点率（評価点/配点<以下省略>）：70%台 4 社・80%台 17 社・90%台 2 社）

- ⑤ 一方、**自主的情報開示**の次の項目は平均得点率が 67%と、昨年度に続き最も低かった。

- ・「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会・社外取締役を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益でしたか」（平均得点率 67%〔昨年度同率〕）（得点率：50%台 5 社・60%台 9 社・70%台 8 社・90%台 1 社）

- ⑥ **ESG 関連**の 4 項目は、次のとおりとなり、いずれも 75%以上の平均得点率となった。なお、(d)については、依然として、上位と下位の評価に大きな差が見られるため、下位評価企業においては、統合報告書の発行、内容の充実を求めたい。

- (a) 「気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していますか」（平均得点率 79%〔昨年度 80%〕）（得点率：50%台 1 社・60%台 2 社・70%台 7 社・80%台 13 社）
- (b) 「ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか。その進捗状況や経営戦略との関係性を適切に説明していますか」（平均得点率 79%〔昨年度 77%〕）（得点率：60%台 2 社・70%台 13 社・80%台 5 社・90%台 3 社）
- (c) 「資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策が十分に説明されていますか」（平均得点率 79%〔昨年度 76%〕）（得点率：60%台 2 社・70%台 9 社・80%台 11 社・90%台 1 社）
- (d) 「(上記(a)～(c)の) ESG 情報を、統合報告書に一括して、詳細に記載していますか」（平均得点率 82%〔昨年度 78%〕）（得点率：30%台 1 社・50%台 1 社・60%台 1 社・70%台 2 社・80%台 11 社・90%台 7 社）

(2) 全体の上位 3 企業の評価概要

第 1 位 日立製作所（ディスクロージャー優良企業〔3 回目〕、

総合評価点 86.0 点〔昨年度比+1.1 点〕、昨年度第 2 位〕

- ① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**が第 1 位（得点率〈以下省略〉86%）、**説明会等**（84%）、**ESG 関連**（90%）が第 2 位、**自主的情報開示**が同得点第 2 位（77%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 3 位（88%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣が企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」が最も高い評価となった。また、「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IR に積極的に関与していること」（第 2 位）も 85%以上の得点率となった。これらに関連して、経営陣は資本市場との対話を通じて積極的に経営にフィードバックしているとの声や、Investor Day で経営トップ自らが企業価値向上へのロードマップを示すなど意識が高いとの声が寄せられた。「IR 部門の機能、基本スタンス」は同得点第 3 位（昨年度同得点第 8 位）となった。これに関連して、IR 担当者の説明力・理解力が高く、有益なディスカッションができるとの声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会資料等における開示」が最も高い評価となった。また、「説明会における開示」（2 項目）および「インタビュー等における開示」も共に 80%以上の得点率となった。これらに関連して、セグメント毎、四半期毎に多様な定量情報がエクセルにまとめられている点を評価する声があった。なお、スモ

ールミーティングで聞かないとわからない数値も補足資料で開示してほしいとの声があった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は、トップと僅差の同得点第 3 位となった。日英両言語でのタイムリーな情報提供を評価する声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、4 項目全てにおいて高い評価となり、いずれも 85%以上の得点率であった。この結果、この分野においてトップと僅差の第 2 位となった。これらに関連して、統合報告書の内容がサステナビリティレポートと連携しており、読みやすいとの声や、ESG に関する説明会の機会が豊富との声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会・社外取締役を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は同得点第 2 位となった。有益なイベントとして、Investor Day を挙げる声が多く寄せられ、そのほか、日立エナジー見学会を評価する声もあった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 富士フイルムホールディングス（総合評価点 84.9 点〔昨年度比+1.2 点〕、昨年度第 3 位）

- ① 同社は、ESG 関連（90%）、自主的情報開示（91%）が第 1 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 3 位（88%）、経営陣の IR 姿勢等が同得点第 4 位（81%）、説明会等が第 9 位（81%）となった。昨年度に比べ、自主的情報開示の得点率が大きく改善した。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」の 2 項目が共に 80%以上の得点率となった。これらに関連して、経営トップが企業価値向上や IR への取組みに真摯であり、決算説明会や事業説明会などに参加し自ら説明しているとの声が寄せられた。また、ESG を重要課題としており、中長期の経営戦略とリンクする形で積極的に開示しているとの声もあった。なお、経営陣との個別ミーティングの機会を一層望む声があった。
「IR 部門の機能、基本的スタンス」は同得点第 6 位となった。これに関連して、IR 部門に十分な情報が集積され、決算説明会や取材においても有益な議論ができるとの声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会資料等における開示」が同得点第 3 位となった。これに関連して、決算資料には、定量・定性ともに十分な情報が開示されており、ビジュアルも改善しているとの声があった。なお、情報の詳細について取材が必要な場合があるとの声があった。「インタビュー等における開示」は同得点第 5 位となった。また、「説明会における開示」の 2 項目が共に同得点第 9 位となった。これらに関連して、事業が多岐にわたるが、それぞれについて詳細な説明や事業説明会を開催し、投資家の理解を深めようとしている姿勢を評価する声があった。一方で、会社計画と足元の業況との相違について議論し切れない部分もあるとの声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は、トップと僅差の同得点第 3 位となった。これに関連して、決算説明のほか各種事業説明会の詳細な内容もウェブサイトに掲載されている点を評価する声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、4 項目全てが高い評価となり、いずれも 85%以上の得点率であった。この結果、この分野におけるトップとなった。これらに関連して、統合報告書において、人材戦略、ステークホルダーとの価値共創、サステナビリティ、コーポレートガバナンスの開示が具体的である。また、ESG 説明会での人材戦略の開示も優れているとの声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会・社外取締役を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は最も高い評価となった。有益なイベントとして、バイオ CDMO 事業説明会を挙げる声が多く、そのほか ESG 説明会（人材戦略）などの各種説明会が挙げられた。

第3位 オムロン（総合評価点 82.5 点〔昨年度比－4.3 点〕、昨年度第1位）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが同得点第1位（90%）、経営陣の IR 姿勢等（82%）、ESG 関連（89%）が第3位、説明会等が第8位（81%）、自主的情報開示が同得点第14位（65%）となった。昨年度に比べ、5分野全てにおいて、得点率が下がった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」の2項目が共に 80%以上の得点率となった。これらに関連して、経営陣が積極的に説明会に参加しており、そのほかにも経営トップとの対話の機会を設けていることを評価する声が寄せられた。また、統合報告書や ESG 説明会を通じて、経営陣の ESG 重視の姿勢が伝わるとの声もあった。「IR 部門の機能、基本的スタンス」は同得点第8位となった。これに関連して、IR 部門の説明力や情報提供力が高いとの声があった一方で、重要情報の開示が四半期毎に変わることがあるなど、IR 資料での情報開示に一貫性がないケースが見られるとの声もあった。
- ③ 説明会等においては、「説明会資料等における開示」が第2位となった。これに関連して、説明資料は充実しているとの声のほか、代理店在庫情報の開示を評価する声が寄せられた。なお、重要である制御機器事業の内訳の情報が不十分との声があった。また、「説明会における開示」の2項目も共に 80%以上の得点率となった。なお、「インタビュー等における開示」は同得点第15位となった。これに関連して、受注に関する十分な定量情報を求める声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は同得点第1位となった。日英両言語でのタイムリーな情報提供を評価する声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、4項目全てにおいて高い評価となり、いずれも 85%以上の得点率であった。これらに関連して、人的資本に関する開示、KPI 設定が優れているとの声があった。なお、Scope3 の目標の設定、開示を望む声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A説明会・社外取締役を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は同得点第14位となった。有益なイベントとして、構造改革プログラム説明会や ESG 説明会などを挙げる声があった。なお、工場見学会の積極的な開催を望む声のほか、社外取締役とのミーティングを望む声もあった。

（参考） 部門別の第1位企業

【産業・民生エレクトロニクス部門】

日立製作所（総合評価点 86.0 点、全体第1位）

【電子部品部門】

ミネベアミツミ（総合評価点 80.1 点、全体第6位）

【精密機器部門】

富士フイルムホールディングス（総合評価点 84.9 点、全体第2位）

以 上

2024年度 ディスクロージャ-評価比較総括表 (電気・精密機器:全体)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャ-		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	6501 日立製作所	86.0	30.2	1	16.8	2	4.4	3	26.9	2	7.7	2	2
2	4901 富士フイルムホールディングス	84.9	28.3	4	16.1	9	4.4	3	27.0	1	9.1	1	3
3	6645 オムロン	82.5	28.6	3	16.2	8	4.5	1	26.7	3	6.5	14	1
4	8035 東京エレクトロン	81.6	29.6	2	16.5	6	4.4	3	24.4	10	6.7	11	4
5	6758 ソニーグループ	80.6	27.1	10	15.3	12	4.2	9	26.3	4	7.7	2	6
6	6479 ミネベアミツミ	80.1	28.3	4	16.7	3	4.2	9	24.9	7	6.0	18	7
7	6981 村田製作所	79.8	27.4	6	16.9	1	4.2	9	24.7	8	6.6	13	10
8	7752 リコー	78.9	27.4	6	14.1	18	4.5	1	26.2	5	6.7	11	11
9	6857 アドバンテクト	78.0	27.0	11	15.7	11	4.1	16	23.9	12	7.3	5	5
10	6762 TDK	77.8	26.3	13	16.3	7	4.1	16	24.3	11	6.8	10	16
11	6702 富士通	76.9	26.5	12	14.6	15	3.9	20	24.6	9	7.3	5	20
12	7741 HOYA	76.5	27.4	6	16.7	3	4.4	3	22.9	18	5.1	22	8
13	6723 ルネサス エレクトロニクス	76.2	26.0	15	16.7	3	4.2	9	22.0	20	7.3	5	14
14	6503 三菱電機	75.6	25.3	16	15.2	14	4.2	9	23.7	14	7.2	8	22
15	6594 ニデック	75.0	27.2	9	15.3	12	4.0	18	22.7	19	5.8	19	18
16	6701 日本電気	74.7	26.1	14	14.3	16	3.9	20	23.3	17	7.1	9	19
16	6724 セイコーエプソン	74.7	24.9	17	14.0	21	4.2	9	25.1	6	6.5	14	9
18	6752 パナソニック ホールディングス	72.7	23.1	20	14.1	18	4.2	9	23.8	13	7.5	4	15
19	7751 キヤノン	71.6	23.2	19	14.3	16	4.4	3	23.6	15	6.1	17	17
20	6146 ディスコ	70.0	24.5	18	16.0	10	4.3	8	18.8	22	6.4	16	21
21	6963 ローム	67.6	22.8	21	14.1	18	3.8	22	21.8	21	5.1	22	13
22	6971 京セラ	66.2	20.5	23	13.0	22	4.0	18	23.5	16	5.2	21	24
23	6920 レーザーテック	61.1	21.6	22	12.7	23	3.8	22	17.5	23	5.5	20	
	評価対象企業評価平均点	76.07	26.06		15.30		4.19		23.86		6.66		

2024年度 ディスクロージャリー評価比較総括表 (産業・民生エレクトロニクス部門)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目3 (配点 35点)	評価点	評価項目4 (配点 20点)	評価点	評価項目1 (配点 5点)	評価点	評価項目4 (配点 30点)	評価点	評価項目1 (配点 10点)	順位	
1	6501 日立製作所	86.0	30.2	1	16.8	1	4.4	2	26.9	1	7.7	1	2
2	6645 オムロン	82.5	28.6	2	16.2	3	4.5	1	26.7	2	6.5	8	1
3	6758 ソニーグループ	80.6	27.1	3	15.3	4	4.2	3	26.3	3	7.7	1	3
4	6702 富士通	76.9	26.5	4	14.6	6	3.9	7	24.6	4	7.3	4	8
5	6723 ルネサスエレクトロニクス	76.2	26.0	6	16.7	2	4.2	3	22.0	8	7.3	4	5
6	6503 三菱電機	75.6	25.3	7	15.2	5	4.2	3	23.7	6	7.2	6	9
7	6701 日本電気	74.7	26.1	5	14.3	7	3.9	7	23.3	7	7.1	7	7
8	6752 パナソニックホールディングス	72.7	23.1	8	14.1	8	4.2	3	23.8	5	7.5	3	6
	評価対象企業評価平均点	78.16	26.62		15.40		4.19		24.66		7.29		

2024年度 ディスクロージャー評価比較総括表（電子部品部門）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスク ロージャー	4. ESGに関連する 情報の開示	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	前回 順位
			評価項目3 (配点 35点)	評価項目4 (配点 20点)	評価項目1 (配点 5点)	評価項目4 (配点 30点)	評価項目1 (配点 10点)	
1	6479 ミネベアミツミ	80.1	評価点 28.3 順位 1	評価点 16.7 順位 2	評価点 4.2 順位 1	評価点 24.9 順位 1	評価点 6.0 順位 3	1
2	6981 村田製作所	79.8	評価点 27.4 順位 2	評価点 16.9 順位 1	評価点 4.2 順位 1	評価点 24.7 順位 2	評価点 6.6 順位 2	2
3	6762 TDK	77.8	評価点 26.3 順位 4	評価点 16.3 順位 3	評価点 4.1 順位 3	評価点 24.3 順位 3	評価点 6.8 順位 1	4
4	6594 ニデック	75.0	評価点 27.2 順位 3	評価点 15.3 順位 4	評価点 4.0 順位 4	評価点 22.7 順位 5	評価点 5.8 順位 4	5
5	6963 ローム	67.6	評価点 22.8 順位 5	評価点 14.1 順位 5	評価点 3.8 順位 6	評価点 21.8 順位 6	評価点 5.1 順位 6	3
6	6971 京セラ	66.2	評価点 20.5 順位 6	評価点 13.0 順位 6	評価点 4.0 順位 4	評価点 23.5 順位 4	評価点 5.2 順位 5	7
	評価対象企業評価平均点	74.42	評価点 25.42 順位 	評価点 15.38 順位 	評価点 4.05 順位 	評価点 23.65 順位 	評価点 5.92 順位 	

2024年度 ディスクロージャリー評価比較総括表（精密機器部門）

(単位:点)

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目3 (配点 35点)		評価項目4 (配点 20点)		評価項目1 (配点 5点)		評価項目4 (配点 30点)		評価項目1 (配点 10点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4901 富士フイルムホールディングス	84.9	28.3	2	16.1	3	4.4	2	27.0	1	9.1	1	1
2	8035 東京エレクトロン	81.6	29.6	1	16.5	2	4.4	2	24.4	4	6.7	3	2
3	7752 リコー	78.9	27.4	3	14.1	7	4.5	1	26.2	2	6.7	3	6
4	6857 アトパシテクト	78.0	27.0	5	15.7	5	4.1	8	23.9	5	7.3	2	3
5	7741 HOYA	76.5	27.4	3	16.7	1	4.4	2	22.9	7	5.1	9	4
6	6724 セイコーエプソン	74.7	24.9	6	14.0	8	4.2	7	25.1	3	6.5	5	5
7	7751 キヤノン	71.6	23.2	8	14.3	6	4.4	2	23.6	6	6.1	7	7
8	6146 デイスコ	70.0	24.5	7	16.0	4	4.3	6	18.8	8	6.4	6	8
9	6920 レーザーテック	61.1	21.6	9	12.7	9	3.8	9	17.5	9	5.5	8	
	評価対象企業評価平均点	75.25	25.99		15.12		4.28		23.26		6.60		

2024年度評価項目および配点（電気・精密機器）

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（35点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	12
②経営陣が企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	11
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
・IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができますか。また、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	12
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明会における開示	
①決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	5
②決算説明会において、今後の方向性（翌四半期の見通し等）を具体的に十分説明していますか。	5
(2)説明会資料等における開示	
・決算説明会におけるプレゼンテーション・補足資料は、必要かつ十分な情報が網羅されていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
(3)インタビュー等における開示	
・主要製品または事業の販売・受注動向が、数量・金額・構成比・成長率のいずれかをもって、十分に説明されていますか。	5
3. フェア・ディスクロージャー（5点）	配点
・経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか。	5
【フェア・ディスクロージャーに関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】	
4. ESGに関連する情報の開示（30点）	配点
①気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していますか。	8
②ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか。その進捗状況や経営戦略との関係性を適切に説明していますか。	8
③資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策が十分に説明されていますか。	8
④上記①～③のESG情報を、統合報告書に一括して、詳細に記載していますか。	6
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（10点）	配点
・ESG説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M & A説明会・社外取締役を含めたIR活動が実施され、その内容は有益でしたか。（前年7月から本年6月までの間） 【有益な説明会・見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	10

電気・精密機器専門部会委員

部 会 長	佐渡 拓実	大和証券
部会長代理	江澤 厚太	シティグループ証券
	綾田 純也	JP モルガン証券
	桂 竜輔	SMBC 日興証券
	富井 喜隆	Polymer Capital Japan
	福永 敬輔	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	和田木 哲哉	モルガン・スタンレー MUFG 証券

評価実施アナリスト（70名）

饗場 大介	岩井コスモ証券	田中 秀明	モルガン・スタンレー MUFG 証券
綾田 純也	JP モルガン証券	谷林 正行	QUICK
有沢 正一	岩井コスモ証券	竹間 雅子	SOMPO アセットマネジメント
石田 重和	丸三証券	坪井 暁	ニッセイアセットマネジメント
伊藤 健悟	QUICK	勅使河原 充	朝日ライフ アセットマネジメント
今津 拓洋	アセットマネジメント One	徳本 進之介	SMBC 日興証券
上迫 和也	三井住友トラスト・アセットマネジメント	富井 喜隆	Polymer Capital Japan
浦 昌平	アムンティ・シージャパン	富田 展昭	極東証券経済研究所
江澤 厚太	シティグループ証券	中名生 正弘	ジェフリース証券会社 東京支店
大川 淳士	大和証券	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント	仁井田 将	りそなアセットマネジメント
大野 剛	丸三証券	西平 孝	岡三証券
大牧 実慶	立花証券	西村 美香	岡三証券
岡崎 優	野村證券	根本 隼	東京海上アセットマネジメント
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	原嶋 悠也	SOMPO アセットマネジメント
小野 まな実	三菱 UFJ 信託銀行	福永 敬輔	三井住友トラスト・アセットマネジメント
片山 智宏	三井住友トラスト・アセットマネジメント	藤原 重良	SOMPO アセットマネジメント
桂 竜輔	SMBC 日興証券	藤原 毅郎	シティグループ証券
鎌田 聡	大和アセットマネジメント	堀 雄介	みずほ証券
久保田 悟	三井住友トラスト・アセットマネジメント	堀井 章	ニッセイアセットマネジメント
栗城 拓也	りそなアセットマネジメント	前川 健太郎	野村證券
甲谷 宗也	みずほ証券	グレアム マクナルド	シティグループ証券
児玉 芳明	明治安田アセットマネジメント	松浦 勇佑	丸三証券
小西 慶祐	QUICK	道脇 祐介	三菱 UFJ 信託銀行
小林 守伸	ニッセイアセットマネジメント	宮原 秀和	丸三証券
斉田 健一	みずほ証券	八木原 謙一	第一生命保険
佐渡 拓実	大和証券	安田 秀樹	東洋証券
佐藤 俊郎	極東証券経済研究所	山崎 雅也	野村證券
醒井 周太	ニッセイアセットマネジメント	山科 拓	マコーリーキャピタル証券会社
芝野 正紘	シティグループ証券	山田 陽子	三菱 UFJ 信託銀行
下森 浩	三菱 UFJ 信託銀行	山本 真以人	ニッセイアセットマネジメント
平 秀昭	三井住友トラスト・アセットマネジメント	横山 雄一	三菱 UFJ 信託銀行
高橋 豊	極東証券経済研究所	和田木 哲哉	モルガン・スタンレー MUFG 証券
立田 裕昌	SOMPO アセットマネジメント	渡辺 洋一郎	水戸証券
田中 健士	みずほ証券	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。